



○事業所紹介○

小規模地域活動センター「縁むすび」

今回は、JR 仙石線 陸前高砂駅の近くにある小規模地域活動センター「縁むすび」取材し、作業内容や支援で大切にしていることなどを伺いました。

○作業内容○

主におにぎり作りの作業を行っています。午前中を中心ににおにぎりを作り、袋詰め、シール貼りなどを行います。おにぎりを作る作業以外にも、縁むすび内でのおにぎりの販売（近隣住民の方や近隣に職場がある方、縁むすびの存在を知って買いに来る方など、様々なお客さんがいます）や注文場所におにぎりを配達する作業などもあります。おにぎりの注文は、病院や区役所などからの依頼が多いとのこと。

縁むすびでは退院して間もない方やなかなか通所事業所に結びつかなかった方が通っているため、作業をすることが難しいという方でも利用ができます。作業は必ずしなければいけないものではないため、通所してからも自分のペースで過ごすことができます。

通所時間についても午前中だけ、午後だけという方もおり、ご本人の体調やペースに合わせた通所を行うことができます。通所の頻度についても決まりはなく、まずは週1回からの利用も可能です。

○支援で大切にしていること○

現在、利用している方は6名ほどおり、精神疾患を抱えた方が多いですが、障害種別を限定せず、利用の受け入れを行っています。（精神障害の方は利用の際に医師意見書が必要になります）

「〇〇ができないと利用は難しい」といった条件ではなく、利用したいと思っている方については受け入れるようになっています。

作業についても職員が「〇〇さんはこれをやって」と決めることは少なく、基本的にはご本人がやりたい作業をしてもらっています。（今日は〇〇の作業をしたい。など）

○おにぎりについて○

おにぎりは定番の「うめ」「さけ」「しそ昆布」「青かつぱ」「ねぎみそ」のほかに、日替わりメニューとして「ラー油ナッツ」「焼肉おにぎり」「チキンライス」など様々な種類のおにぎりがあります。（どれも120円～150円）

おにぎりは注文ができ、仙台市内であれば配達が可能です。

縁むすびの利用者は現在も募集中とのことなので、気になる方は見学やおにぎりを買いに足を運んでみてはいかがでしょうか♪

縁むすびのおにぎりを販売しているところ →



ペンネーム・ぞらさんの体験談から見えないつらさや不便さ、たれにても起こり得ることであること、どのように乗り越え今の自分があるのかを伝えていきます。

久しぶりに同じ病氣を持つ知人」と会った。」は自宅療養している内に両親の介護をするようになり、もう十年になる。服のボタンが取れかかっていたので、その場で小さな携帯裁縫セットがでつけ直してあげると「人に何かしてもらうのってとても嬉しい」と感激していた。外を誰かと並んで歩く楽しさも久しぶりだとも口にしていた、その時選挙の宣伝カーが通り「子供たちの未来の為に環境を考えます」と自分に幼児がいる事を強調して車は通りすぎて行った。子供でなくなってしまい、一人でいろいろ背負い、心が疲れてる人達の環境はそのままなのだろうか。小さな幸せを探しながら、やっと息をして生きてるような者達には希望の光がなかなか当たっていないような気になるのはなぜだろう。



第20回

日本うつ病学会総会

第39回

日本ストレス学会・学術総会

令和5年7月21~22日@仙台国際センター

ポスター発表しました。



第20回日本うつ病学会総会は「うつ病、双極性障害と共存する社会を目指して」とのテーマで開催されました。

全世界の成人の5%がうつ病と共存していると推測されています(日本の患者数は120万人)が、疾患に対する理解度や関心度は必ずしも高くありません。加えて新型コロナウイルスの大流行は多くの人の精神衛生に大きな打撃を与え、さらなる課題を生み出しました。そこで世界医学総合雑誌 ランセットは「うつ病に対して世界が一致団結して行動する時が来た」として政府、医療従事者、研究者、患者当事者・家族が協力して世界で取り組んでいくことを宣言しました(2022)。この宣言においては、うつ病に関する治療、研究、施策、普及啓発等への当事者参画の重要性が明確化されています。

総会ではこうした世界の動きや日本の現状を踏まえて、うつ病当事者にかかわる医療従事者や地域の支援機関等による治療や支援の取り組み、当事者団体や家族会、医療従事者による当事者活動の取り組みや活動がもたらす効果、活用・協働の有効性等についての講演発表が行われました。

当事者団体、家族会、当事者活動支援団体の16団体がポスター発表や講演発表を行い、活動紹介や活動に対しての思いなどを伝えていました。

他団体の活動

○定期的なお話会(フリートーキング)の開催

- フリートーキングの内容をまとめた広報誌を医療機関などに配布。当事者の生の声が聞けると好評。

○支援機関、市民などへの講演・普及啓発活動

- 市民向け理解啓発資料の作成。

○当事者への情報発信

- 障害福祉サービス利用の流れを当事者が解説。利用しての感想なども発信。

○調査研究の実施・協力

- 当事者主導型研究として「精神障害と災害」をテーマにヒアリング調査等実施。

活動を通して思うこと

- ・当事者活動は当事者自身だけのためではなく幅広く展開していくものであり、計り知れない力を持っていると実際に運営していて感じる。
- ・効果が数値化されづらいがゆえに、価値について軽視されていないかという危惧がある。
- ・社会に重要性が浸透せず、求めている人・必要な人に届いていないように感じており、活動継続を困難にさせる一つの要因となっている。
- ・当事者活動は医療や公的サービスでは届かない部分を担っていると考える。当事者支援の一つのツールとして確立してほしいとおもう。